

和歌山県東牟婁郡那智勝浦町

中山間地域における地域ハブ（HUB）の役割と 可能性を考える



【活動の基本情報】

参加学生数：3名

（1年生：1名、2年生：1名、3年生：1名）

活動期間：2023年6月～

担当教員：八島雄士

1. 活動実施の経緯

色川地区は、40年以上前から移住者受入を地域主体で行ってきた中山間の集落です。9つの区からなる地区のHUB（ヒトやモノが集まり、交流が生まれる場所）となっている「らくだ舎」を中心に、①山里コミュニティのいま、②棚田などの地域資源や伝統的行事などの価値、③学生ができること、④中山間地域を残していく術（残していく必要があるのか含め）などを議論しながら考えることを活動の主眼としました。

2. 活動の内容

事前学習では、色川地区の歴史やらくだ舎を運営する思いなどを共有し、訪問する準備としました。現地訪問では、らくだ舎視察のほか、買い物や食事に来られた方たちと会話ができました。特に、訪問した6月は梅の時期で、梅ジュース作りや梅拾いなどを、他の地域からお手伝いに来られた方たちと交流しながら体験できました。また、10月には、小阪区の宮祭りに準備から関わりました。小阪区は今でも地域行事が残っており、実際の雰囲気を感じながら、行事を継続する意味などを考える機会となりました。11月には、那智勝浦町内で開催された全国棚田サミットで、色川地区が出店したブースのお手伝いをしながら、全国から来られた参加者と交流しました。最後に、1月には小阪区の燦々会（交流・食事会）で活動報告しました。

3. 活動を通じて

今年度は3名（1回生、2回生、3回生、それぞれ1名）のメンバーで実施しました。コロナ禍で途絶えていた燦々会での交流がようやく再開されました。また、地域に棚田があることの意味や、維持するための大変な労力を、身をもって知ることができました。結果として、らくだ舎という「場」はもちろんですが、訪問した学生そのものが地域の方たちをつなげるHUBの役割を果たしているのではないかと思います。

4. 成果ポスター

和歌山大学観光学部 地域連携プログラム (LPP) 2023

那智勝浦町色川地区

中山間地域における地域ハブ (HUB) の役割と可能性を考える



色川地区について

那智勝浦町色川地区は、那智勝浦町の中心部から山間部へ車で30分ほど走った所に位置する、9つの区から成る、人口が300人ほどの小さな地域です。かつて盛況していた鉱業が1970年代に廃止となり、地域の人口は外部へと流出していきました。しかし、同時期より外部からの移住者を積極的に受け入れ、現在では地区全体の人口のおよそ半分を移住者が占めるまでになりました。ただ、LPPの活動を主に行っている小阪区は、他区と比べ移住者は少なく、その代わり地域の行事や風習が比較的残っている地域となっています。地域資源としては、美しい棚田や茶畑が有名です。特に「小阪の棚田」は、一度休耕田となった棚田を移住者を含む地域住民が主体となり再興させ、現在も関係人口の方々などを交えた保全活動が定期的に開催されています。



LPP活動について

2016年度から活動を行ってきた那智勝浦町色川地区におけるLPPは、色川ならではの行事や風習への参加（フィールドスタディ）を通し、学生の知見を深めることを中心に活動を行ってきました。また、活動を通して「学生が感じたこと」を地域住民に発表する場を設けることで、住民のいわゆる「鏡効果」醸成にも寄与してきました。2023年度は、これまでの活動をベースにしつつ、棚田などにまつわる地域の課題解決に向けた具体的なアクションを起こすことで、地域の課題を「自分ごと」にする取り組みも予定していました。

活動報告

今年度は昨年度よりも現地に行く回数が増やすことができました。地域の伝統行事に参加したり、棚田サミットに携わったりしたことで、たくさんの人との関わりを持つことができました。現地の方々从那智勝浦町色川地区に対する思いを実感することができ、中山間地域について深い学びを得られました。来年度は今年度の学びを活かし、地域ハブの役割を明確化する活動と可能性を見出す活動を積極的に行いたいと考えています。

らくだ舎訪問

6月4日に顔合わせを兼ねて色川よろず屋・らくだ舎訪問を行いました。らくだ舎で提供される料理の食材には色川産のものを積極的に使う、らくだ舎に訪れた人々と近い距離で交流をするなど色川ならではの特色が見られました。色川で人と人を繋ぐ大きな役割を果たす場所であると感じました。



宮祭り参加

宮の倉庫に保存されている資料を見せてもらいながら今の色川地区に至るまでの経緯を住民の方に説明していただき、色川について深く知ることができました。宮祭り後に行われた交流会にも参加し住民の方との交流を通して棚田や集落の現状についても知り中山間地域についての理解が深まりました。



棚田サミット

11月18日、19日の2日間にわたって、全国棚田サミットが那智勝浦町で開催されました。私たち学生は、1日目は色川の特産品の販売や分科会の参加、2日目は引き続き特産品の販売、そして、しめ縄づくりや餅つき体験のお手伝いをさせて頂きました。全国各地の棚田保全に関わる方と交流ができ、とても貴重な経験になりました。また、開催地となった色川の方からのお話も聞くことができ、このイベントの本質について考えることが出来ました。



2023 年度 LPP 合同活動報告会 実施報告

和歌山県東牟婁郡那智勝浦町

テーマ： 中山間地域における地域ハブ(HUB)の役割と可能性を考える

報告会の様子

私たちは「中山間地域における地域ハブ(HUB)の役割と可能性を考える」のテーマの下、今年度行った活動について発表した。初参加のメンバーがほとんどだったので、今年度は地域ハブの役割と可能性を考えるための下準備として「那智勝浦町色川地区について知る」ことに力を入れ、来年度に地域ハブの役割と可能性を考える活動を本格的に始めることを報告した。活動に対して好意的な意見を頂くことができ、学生のモチベーション向上を図ることができた。

LPP 報告会全体としては、様々な LPP 間での交流が見られ、互いに良い刺激を与えることができたのではないかと感じた。ただ、交流会の時間が長く時間を持て余してしまう LPP が多かったので、時間配分や実施方法については再度考え直す必要があると考える。

報告会で頂いた質問

① 来年度の活動はどのようなことを行う予定か

→地域ハブの役割と可能性を考えるにあたり、那智勝浦町色川地区のキーワードは何かについて検証したいと考えている。具体的には、地域の方々が集う飲食店や宿泊所にノートを設置し、利用した感想を書いてもらいそこからテキストマイニングを行うことを想定している。しかしまだ確定したわけではないので、来年度のメンバー間で話を擦り合わせる必要がある。

② 活動の拠点となった「らくだ舎」はどのような機能を果たしているか

→喫茶店、図書館、書店と一つの施設で複数の事業が行われている場所。お客様と比較的近い距離で交流することができ地域住民、移住者問わず集うことのできる空間としての役割を果たしている。